

## ■第4回 都市と地域コミュニティの持続可能性に関する懇談会 意見交換要旨

### 【地域の共助】

- ▶地域で取り組むべき**共助に注力**するには、特に**若い人の力**が必要であると感じているが、若い人の**自主防災組織**への加入は思うように**進んでいない**状況である。地域の**防災力**を高めていくために、若い人の加入を**促進**する取組が必要である。
- ▶「近所との関係が希薄なため、避難所生活が不安」という声がある。災害が発生してから何かを始めるのではなく、**フェーズフリー**で平常時と災害時に関わらず、**普段**から地域の人と**顔が見える付き合い**をしていくことや、地域の人や子育て世帯同士で避難訓練を実施してみるなどの活動を**積み重ねて**いくことが、地域の**防災力向上**につながるのではないかと考える。
- ▶現代の地域社会では、共働き世帯の増加などにより**日中に大人が不在**となる家庭が多い。そのため、**地域の核**となるのは地域の**中学生**ではないかと考えており、中学生が地域住民を知っていることが大事である。中学生が、地域での**あいさつ**や家庭の**会話**の中で自分の**地域を知る**ことが、**地域を守る**ことにつながるのではないかと考える。また、自分の家族を守るためにも、地域の人に自分の家族を**知ってもらう**ことが大切である。
- ▶自治会によって、防災の取組に違いがある。市が主導となって、**見本**となる地域の取組を他の地域に**広げて**もらいたい。防災の取組は、自治会によって差があってはならないと考えており、**市全域で防災力を高めて**いくべきだと考える。
- ▶必要な**物資が届かない**という事態への対応として、県内他市町村の子育て関連**NPO**との間で必要**物資の送付**で助け合う**ネットワーク**の構築を図っている。このような**連携**は、災害時において**重要**であると考えている。
- ▶家族構成の変化など様々な要因により**自治会加入率が低下**し、地域の**つながりが希薄化**している。災害が発生したときに、**自治会未加入者**に対して地域でどのように**対応**していくのが**課題**である。**自治会**への**加入促進**にしっかり取り組んでいくことが大事ではないかと考えている。
- ▶地域コミュニティにおいて、日頃の**コミュニケーション**が**少なくなっている**中で、どのように**共助の取組**を進めていくのが大きな**課題**である。
- ▶自分の地域だけでいきなり取り組もうとすると、困難なことが多い。他の**取組事例**を**手本**にしながら進めると良いのではないかと考える。まずは他の地域がどのように取り組んでいるかを**知る**ことが大切である。
- ▶住民は住民、企業は企業など、分けて考えるのではなく、被災時に地域で**何が起きる**のか、どのような**調整**が必要なのか、平常時に**話し合っておく**ことが必要である。

### 【避難所】

- ▶台風や大雨による**増水時の避難場所**として、河川近くの公民館は、**立地**として大丈夫なのか**不安**に感じることもある。
- ▶最近では以前に比べて、公民館に**避難**する人が**増加**しているのではないかと感じる。そ

れだけ災害に関する**広報が進んできた**のではないか。

- ▶ **女性や子どもが避難所で生活しづらい**という課題があることから、子育て中の母親や子どもの**心のより所**となる場所が必要だと考えている。そのため、現在、県有施設の子育て広場を子育て中の**母親や子どもの第三次的な避難所**とするよう進めていただいている。

### 【避難訓練】

- ▶ 企業の取組においても、定期的な避難訓練を実施しているが、あらかじめ訓練の情報を**周知**した上で実施されるケースが多い。有意義な訓練にするため、**手法を検討**していくことが必要だと考えている。
- ▶ 避難時に**介助**が必要な方に対する**支援**について、日ごろから**研修**を実施しておくことが大切である。
- ▶ 避難訓練は小学生の頃から何度も参加してきたが、**避難訓練を実施することが目的化**しているのではないかと考える。実施方法に**工夫が必要**である。
- ▶ 防災訓練は様々あるが**リアリティに欠けている**ものがある。また、**自分事**に置き換えて、しっかりと**考えられる**ようなものになっていないことも課題である。
- ▶ 体育館を使用して実際に**避難所体験**をしてはどうか。家庭環境の違いから、多くの**気づき**があるのではないかと思う。平常時だからこそ、**体験**してみることや**地域との関係性**を構築しておくことが重要である。
- ▶ **小学生と地域住民が合同で避難訓練**をしている自治体がある。避難生活を想定して、昼食に**備蓄品**を食べたり、個人の**避難袋**の中身を見せ合ったりと、**体験**から多くを学び、**地域全体で防災意識を向上**させている。

### 【防災意識】

- ▶ 多くの市民が市内で**災害を経験したことがない**ため、災害はきっと来ないだろうという**安心感**を持ってしまう人が多いと感じる。
- ▶ 2017年から母親たちのママ防災に取り組んでいる中で、防災のイベントや研修に**参加する人**は、日ごろから**防災に対する意識が高い**人たちである。逆に、イベントなどに**参加しない人**は、防災意識が低いことから**リスクが高い**。**防災意識の低い人**が参加したくなる**きっかけづくり**が大切であると考える。
- ▶ 県内在住の子育て中の母親を対象に**アンケート**を実施した〈回答者数 324 人〉。災害時において**不安**を感じることにについて、約 **30%**の人が「**避難するタイミング**が分からない」との回答であった。また、「**物資**は何をどのくらい**支援**してもらえるのか心配」といった回答もあり、**共助**というよりは**行政や地域からの支援**を期待している人が多いのではないかという印象を受けた。
- ▶ 市内在住の子育て世代である 20~40 代は、**避難生活を経験したことがない人**が多い。また、近年、**県内で大規模災害が発生していない**ことから、**若年層の防災意識の低下**を懸念している。
- ▶ 小中学校で防災に関する授業を受けることで、知識や備えをしておくべきという**防災意識**は向上してきたが、**防災グッズ**や**ハザードマップ**を実際に**確認**するといった

行動には**至らなかった**。先般、災害時を想定し、太陽光を利用した炊飯や水での即席麺づくりなどを実際に体験した。話を聞くだけでなく、**体験**することで、**防災意識**がさらに**高まった**ことを**実感**したところである。イベントなどで**体験できる機会**を提供することで、個人の**自助意識を高める**ことができ、最終的には周りで**助け合う共助意識の向上**につながっていくのではないかと考える。

- ▶**防災に興味がない人**に**いかに情報を届けるか**、**工夫**が必要だと考える。
- ▶**防災に興味をもってもらう手法**の1つとして、他のイベント等と**掛け合わせる**ことで、これまで興味を持たなかった人にも、**広がり**が出てくるのではないかと考える。例えば、防災やコミュニティといった**単発のテーマではなく**、**複数テーマ**の中に防災やコミュニティの**要素を盛り込んだ**イベントにすることで、**幅広い層に興味**をもってもらいきっかけになるのではないかと考える。
- ▶災害を経験していない一般市民の目線からすると、まずは**楽しく防災を学ぶ**ことが個人の**防災意識を高める**ことにつながるという話に**共感**した。例えば、キャンプイベントに防災の要素を取り入れるなど、**楽しく学べる**という**仕掛けは重要なポイント**である。**啓発活動の工夫**が必要だと考える。